

## 麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙



### アートな麻布に魅せられて②7 令和に甦った江戸宝暦年間の店蔵

仙台坂上から四の橋に向かう一本道の途中に、モダンなコンクリートの建物が昨夏、完成した。木の格子戸に見覚えのある方も多いのでは？ そう、以前の古民家を建て替え、1階部分に江戸時代から伝わる店蔵を保存再生したのだ。

自然光とライティングの効果でほんわりとした雰囲気心地よい令和の店蔵。



やまおかたけひろ  
山岡嘉彌さん  
一級建築士事務所 山岡嘉彌デザイン事務所代表

#### 「商人の町の生き証人」としての店蔵

私たちがこの場所を訪れたのは実は2度目。2014年1月、建築家の山岡嘉彌さんにご自宅の古民家への思いをインタビューした(ザ・AZABU27号「麻布びと」)。建物はかつて店舗や座敷にも利用されていた店蔵と、奥に続く昭和初期からの母屋。その店蔵は旧江戸御府内(江戸市中)に江戸時代から唯一現存するといわれる貴重なものだ。山岡さんのご先祖様は宝暦年間(1751~1764)に近江(現在の滋賀県)から出てきた商人で、仙台藩の出入り商人として薬や米、炭、薪などの商いをしていたという。「私の使命はこの家を記録し記憶を語り継ぐこと」と、当時教鞭をとっていた大学の学生らとともに外観から部材の一つひとつを実測し図面を書き起こした。

残念ながらその後2018年の台風などで老朽化が一気に進み、いよいよ解体することに。しかし店蔵だけは「この通りは江戸の当時から昭和60年代頃まで、商人の店が建ち並ぶ街でした。最後の一軒であるこの建物は麻布の歴史を見守り続けている存在です。どうしてもここに遺したかった」と山岡さんは熱く語る。

#### 匠の技の宝庫だった

15カ月の設計期間を経て、2020年5月から解体工事がスタートした。「それはもう、驚きと発見の連続でした」という話のわけは、例えば大壁の土を丁寧に削り落とすと、太い竹を縄で接合する「竹小舞」の下地が

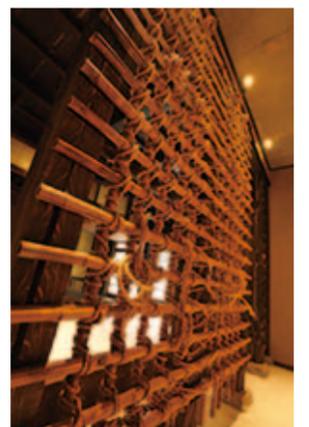
出現。柱や梁は、釘を使わず材木に凹凸をつけた「仕口」と「継手」でがっちり組まれている。しかも材自体、火災による炭化痕や湿気による腐朽、虫害の痕も見られまさに満身創痍。それらを「金輪継ぎ」という技術で新しい材と継ぎ合わせ、生き長らえてきた。「災害で損傷を受ける度に丁寧に修復していったのです。職人たちの確かな技の結集に目を奪われました。」また文化財の専門家の調査によると、材の表面の加工痕からそのほとんどが宝暦年間のものであることもわかった。「店蔵が建ったのは安政年間(1855~1860)と考えられてきました。ところが、この分析結果でさらに約100年さかのぼった宝暦年間、つまり先祖が江戸に出てこの地に居を構えたその時機の建物であることが特定できました。意外なことでした」

\*\*\*

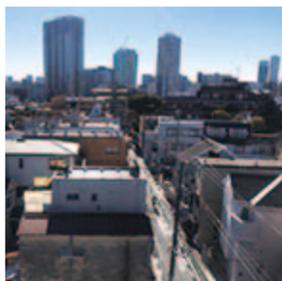
保存再生した店蔵の中には竹小舞壁の再現や、仕口と継手が当時のままみられ、また前回の取材でも目をひいた黒光りする「箱階段」も健在だった。それらを見学し、しばし店蔵の来し方に思いを馳せた。今ここにあることは奇跡に近いことなのだ。17代目当主にして建築家の山岡さんが、未来へ向かって命を吹き込んだこの店蔵は、麻布の新しいアートだと同、確信した。



一つひとつの材を解体した後に、殺菌・殺虫処理をするなど手間がかかっている。



竹小舞下地の繊細な美しさ。下部には新しい材を継いで「令和参年修補」と刻印。



建物の屋上から見下ろしたところ。間口が狭く奥の長い敷地割がわかる。これが商人の町の名残なのだ。



撮影・坂口裕康

#### 鶯啼居

この建物には、松尾芭蕉が「うぐいすをたづねたづねて阿左布(注・麻布)まで」と詠んだと伝えられる地であることに因み、また旧邸の庭にもよく鶯が来ていた情景の懐かしさも込めて山岡さんが「鶯啼居」と名付けた。上階は外国人ファミリーの入居を想定した共同住宅。店蔵を保存再生した1階スペースは、今後、入居者の会合や、地域住人、まちあるきツアーの方たちにも見てもらえるような利用のしかたを考えたいとのこと。



旧店蔵。2014年1月撮影。



新旧の材を金輪継ぎで組んだ断面。柱の根本に使われ、前後左右に力がかかっても、変形に追従し柔軟に元に戻る。

# 百景

人とまちをつなぐ 縁の下の力持ち

## 東京メトロ



霞ヶ関駅務管区 溜池山王地域区長 古澤茂明さん  
 駅務係 村井桃子さん  
 本社広報部広報課 堀口拓夢さん



普段は立ち入ることができない駅のモニタールーム。左から古澤さん、村井さん、堀口さん。駅構内はもちろん、駅務室でもマスクの着用は厳守。撮影の瞬間のみ外していただくというコロナ禍らしい取材に。

筆者には長年あためてきた企画がある。それは日本の鉄道サービスを取材すること。なぜなら、地震やゲリラ豪雨などの自然災害、人災に日々見舞われる中、「毎日、数百万単位の乗客を定刻通りに運ぶ」という神業が世界遺産に匹敵するのでは？と思っているからだ。今回ご協力いただいたのは日本一を誇る地下鉄会社『東京メトロ』こと、東京地下鉄株式会社の皆さん。秘密基地の迷路のように広がる駅務室の奥でお話を伺った。

### 大都市の機能を支えるしごとびと

「私は北海道出身で、上京してきた時に電車が朝ラッシュの時間帯などは4分おきで走っていることに大変驚いて、首都東京の都市機能を支える東京メトロに憧れたのがきっかけです」

そう語るの、勤続9年になる駅務係の村井桃子さん。鉄道＝男性社会というイメージがあったが、女性の割合はどのくらいだろうか。

勤続36年の大ベテラン、溜池山王地域区長の古澤茂明さんによると「私が管理している6駅、六本木一丁目、麻布十番、白金高輪、白金台、溜池山王、国会議事堂前には117名ほど働いておりますが、女性は21名です」という。

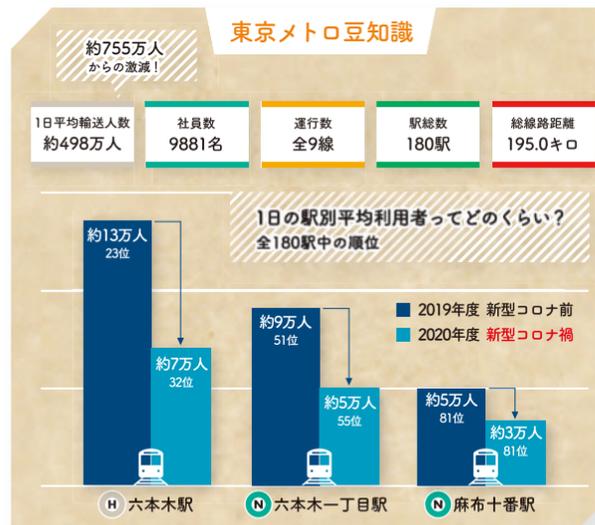
駅の勤務は基本、週休2日の5日制。駅構内に男女別の寢室があり、全泊勤務という朝8時出勤～翌朝8時までが週に2本(1本で2日間勤務に相当)、朝出勤して夕方帰る日が1本というサイクル。

2つの駅が直結したり、複数の線が乗り入れる大きな駅では利用者も迷子になりやすいが「新しい駅で勤務をする際は、自分たちの時間を使って実際に歩いて、どのようにご案内したらお客様に一番伝わるか、勉強しています」と村井さん。



### いかなる危機にも強いプロ集団

新型コロナにより利用者数が半減し、昨年10月頃から少しずつ乗客が戻りつつある、という東京メトロ。初めて緊急事態宣言が下された2020年4月頃でも、一度にたくさんの人を運ぶ任務についていた時の、心のうちは如何だった



と思います」と古澤さん。

かつて、麻布の住民の最寄り駅でもある神谷町駅では、地下鉄サリン事件も起きた。

「はい、覚えています。あの時は、改札にいても不安でした。何か起きた時は、どうやってお客様を避難させればいいのかを考えながら仕事していました」

東日本大震災の時は「メトロは他の鉄道会社と直通運転をしているので、うちは影響なく走っても他社の電車が入ってこない、など大変さはありました」

「ただ、地震によって地下鉄の駅が崩れることは起きていません。メトロでは災害が起きた後には補強も進めています。むしろ地下は安全で、慌てて地上に逃げるのは危険です。落ち着いて係員の指示に従って下さい」

「ゲリラ豪雨に対しても、水の処理機能をはじめ、様々な対策をしているので、安心です」と心づよい。

### より便利に、快適に

昨年12月、六本木駅には新たなバリアフリールートが誕生した。日比谷線六本木駅改札階と2番線ホームをつなぐエレベーターが開通し、地上4a出口(六本木交差点ビックカメラビル)から2番線ホームまで、ベビーカーや車椅子での移動が可能に。気がつけば、駅には様々な手が差し伸べられている。



例えば、駅務室にダイレクトにつながる「駅係員よびだしインターホン」。各ホームに一定間隔で設置されている。電車内では、各車両に「SOS」と書かれた赤いマークが目印の「非常通報装置」、エスカレーター周辺には将棋倒しなどの事故防止のため「非常停止ボタン」がいくつもあ。駅構内には「リモート作業専用ブース」も置かれるようになり、刻々と変化する状況と時代のニーズに合ったサービスが提供されている。



駅係員よびだしインターホンと非常停止ボタン。泥酔や喧嘩など、乗客同士、駅員さんへの暴力行為は毎週のようにあるそうで「六本木地域は特に多い」とかたじけない。

東京メトロと麻布の歴史もみてみよう!

1964 (昭和39)年の東京オリンピックに向け開通した日比谷線は、全9線の中で3番目に古い。

1991 (平成3)年に開通した南北線も昨年11月、30周年を迎えた。坂道を登ったり下りたりしながら神谷町や六本木、溜池山王駅を利用していた地域住民にとって、利便性は格段に上がった。



昭和37年頃の日比谷線の工事風景。場所は外苑西通り。現・西麻布4-3-1付近。中央の白い建物ハレルヤ美容室は、西麻布3-24-18~19辺り。その先約30mに六本木通り。(写真提供:港区オープンデータカタログ)

広報の堀口さんによると「車椅子ご利用のお客様や目の不自由なお客様のサポートをする際には、プライバシーに配慮したアナウンスを推奨しているほか、自社アプリを使って情報を共有し、ピンポイントでサポートしています」と日々、進化向上している。

### 日常の当たり前を振り返る

読者の中には、海外出張や旅行、留学や二拠点生活を通して、諸外国の公共交通機関で足止めを食ったり、当たり前の遅延運行に苛立った経験がある人も多いと思うが、東京メトロでは1日平均約500万人も乗降しているのに、電車はいつも定刻通り走っている。何が違うのだろうか。

今回の取材とリサーチを通して見えてきたのは、運転士、車掌、駅務係などの運輸エキスパートをはじめ、車両や電気、土木や建築、ICTなどの技術者ほか、現場ではたらく人々の「志の高さ」と「勤勉な背中」だった。

緊急事態宣言が明けてから、筆者はひそかに、普段は降りない駅で下車して街を散策する「チカ鉄プチ旅」を楽しんでいる。よその街の再開発、まちづくりも様々で、美味しいもの好き、探検好きには、ぜひ、おススメしたい。

- 参考文献
  - 東京地下鉄株式会社 企業情報: <https://www.tokyo-metro.jp/corporate/index.html>
  - 東京地下鉄株式会社 新卒採用情報: <https://tokyo-metro-recruit.jp>
  - 一般社団法人 日本民営鉄道協会: <https://www.mintetsu.or.jp>
- 協力
  - 東京地下鉄株式会社 霞ヶ関駅務管区溜池山王駅
  - 東京地下鉄株式会社 本社広報部広報課



町会・自治会元気だより 02 あざぶたけやちようかい 麻布竹谷町会



## やさしい あたたかい あの人が住む町

麻布地区の町会・自治会の活動をご紹介します。  
今回は、麻布竹谷町会の皆様にお話を伺いました。

### 守る 年末夜警に密着！

こんにちは、麻布竹谷町会長の安倍憲一です。私は、日頃の挨拶活動が防犯上一番役に立つと思っております。町内では「こんにちは！」と挨拶が飛び交います。私も「いつもお世話になっています」が口癖で、見知らぬ人には「どこかお探ですか」と一声かけています。みなさん、当町会を愛していますよ。

●会長 安倍憲一さん



町会として、色々な行事を行っております。お祭り、子ども会、防災訓練等、多くの子どもさん達が参加して頂いています。また、最近は外国の子どもさん達も増えてきており、国際交流が盛んになりました。一人でも多くの方に「挨拶できる」ように日々努力しております。

●副会長 石井芳弘さん



お祭りでは、若い人達もお神輿に奮って参加します。また、防犯部長を長年務めている会長のもと、警察と連携し安全な町づくりに取り組んでいます。みなさんこの町に愛着を持っていらっしゃいます。

●婦人部長 松原玉枝さん



19:30

取材隊は、南麻布1丁目の銭湯「竹の湯」前に到着。この日は、店主の樋口浩司さんが夜警当番を務められました。



19:50 集合

詰所前にて。お揃いのウィンドブレーカー、毛糸の帽子にマフラーと防寒対策もバッチリ。



20:00 スタート！

ひょうしぎの音が師走の夜空に響きました。途中の坂道も、普段から歩き慣れているみなさんにとってはなんのその。常に小走りの我々。



20:30 仙台坂上

東京タワーを前方に。すれ違う人から「おつかれさま」とねぎらいの声。

20:45 解散

この冬一番の寒気と言われた撮影当日。町の安全を願う人の思いに触れ、あたたかい気持ちで帰路につきました。



## 伝える 麻布氷川神社例大祭



秋に開催される一大イベント。大人神輿、子ども神輿、女神輿、山車が巡行します。また、麻布新堀町、麻布本村町と三町合同で麻布氷川神社へ宮入を行います。

コロナ禍における取り組み①

町内に設営された神所が拝拝の場となりました。

### 備える 防災訓練



●防火部長 田村智明さん

麻布消防署ご協力のもと、防災訓練を子ども会と一緒にしています。AEDの講習、起震車体験、消火器の使用やD級ポンプの放水訓練などを通して、子どもの頃から災害時に備えます。

コロナ禍における取り組み②

区の行事中止に伴い、町会独自の防災訓練を実施。消火器具や倉庫内備蓄品の確認を行いました。



## 愛する

●相談役 高橋慶さん

下校時、表に出て「おかえり」と声をかけています。外国のお子さんもよく挨拶してくれますねえ。長年、当町会に入っていますが、ここはみんな和気あいあい。他へ出ようという気がなく、この町でずっと暮らしたいと思っています。

#### 町会データ

- 加入世帯数 300世帯
- 年間行事
  - 1月 年始の夜警 新年会 新成人へのお祝い配布
  - 4月 火災予防運動 交通安全運動
  - 5月 総会
  - 7月 東町小学校ラジオ体操
  - 8月 子ども会と防災訓練
  - 9月 敬老のお祝いの配布 交通安全運動 麻布氷川神社例大祭
  - 10月 バス旅行 清掃施設見学会 地域防犯安全運動
  - 11月 麻布地区総合防災訓練 麻布防火協会研修会
  - 12月 年末の夜警

#### 麻布竹谷町の由来

古来、里俗に竹ヶ谷と呼んだことに由来します。別に、「ねくるみ村」とも呼ばれ、うぐいすの名所として巢立野とも呼ばれました。明治5(1872)年、武家地を合併して麻布竹谷町となりました。その名にちなんで、町紋は竹の一字と矢に見立てた葉が縁取られ、内に蝶が付んでいます。

#### お問い合わせ

麻布竹谷町会公式ツイッター  
<https://twitter.com/takeyachou>

麻布地区総合支所協働推進課協働推進係  
電話/03-5114-8802 FAX/03-3583-3782

港区ホームページ 麻布地区総合支所 町会・自治会一覧・加入案内  
URL : <https://www.city.minato.tokyo.jp/azabukyoudou/azabu/kurashi/chokai.html>

●写真提供 1~4 麻布竹谷町会

●参考文献 麻布竹谷町会公式ツイッター

麻布竹谷町会では公式ツイッターを運営。年間行事の情報が随時更新されています。是非チェックしてみてください。お問い合わせはお気軽に♪



キプロス共和国  
 面積:9,251平方キロメートル(四国の約半分と同じ広さ)  
 人口:約100万人(キプロス共和国統計局)  
 首都:ニコシア市  
 言語:ギリシャ語、(ほか広く英語)  
 元首:大統領制、元首兼行政の長  
 議会:一院制80議席(現在ギリシャ系56議席のみで構成)

参考:外務省ホームページ  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/cyprus/index.html>



ハリス・モリチス大使(Charis Moritsis)

大使を訪ねて  
**麻布の"世界"から**



# CYPRUS

取材協力/キプロス共和国

2020年2月、南麻布の駐日欧州連合代表部が入居するヨーロッパハウス内に、キプロス大使館が開設されました。地中海東に位置する、四国の半分ほどの島国キプロス。その映えある初代大使として、ハリス・モリチス氏が着任。大使の意気込みや今後の展望を伺いました。



キプロスのレストランに必ずある「焼きハルミ」。焼いても溶けないハルミチーズはそのままでも焼いても美味しい。  
 ※上記2点 キプロス・インフォメーションサービス/Cyprus Information Service提供

キプロスのソウルフード、大人から子どもまで大好きなスイーツ「ルクマデス」蜂蜜のシロップを潜らせた甘いドーナツ。

## 自ら駐在を希望して、日本へ

モリチス大使(以下大使)は外交官としてこれまでにセルビア、フィンランド、エジプト、ベルギー、再びエジプトでの赴任を経験してきた。日本への赴任は、自ら手を挙げた。「日本は世界の中でも技術大国であり、地球上での役割も非常に重要な国です。私自身も学ぶことが多いと思います、日本行きを希望しました」。数名の立候補がある中、日本への赴任が決定。キプロスで本や映画、また日本人の外交官に会い予習をしてきた。来日してから学び始めている部分も多いという。

## 日本市場に拡大を狙うキプロスの食品

初代大使として重要なミッションは、日本との貿易の拡大だ。キプロスから日本への輸出は「食品が主流です。最も多いのが魚。貝ではなく冷凍した魚を多く輸出しています。他にチーズ、ワイン、塩など」。

今後輸出量を増やして、日本に定着させたいと働きかけている。さらにキプロスワイン、オリーブオイル、チーズなどが候補にあがっている。中でもキプロス特産のチーズ「ハルミ」について、大使が熱く語って下さった。「タイム(シソ科のハーブ)を餌にして育った羊や山羊の生乳から作ったチーズで、キプロスの家庭では毎日登場する、とてもポピュラーなフレッシュチーズです。」特徴は焼いても溶けないこと。生のままでも、グリルしても美味しい。キプロスのレストランでは、どこでもハルミが登場するほど。今回の取材で大使が用意して下さいたハルミチーズをご馳走になった。癖がなくて、食べやすい味は、日本人の口に合う美味しさだった。

貿易で日本からの輸入品は、自動車、船、そして日本の技術が主要である。

## 身体を鍛えるのが趣味、健康おたくの大使

大使は赴任が決まって、初めて日本へいらした。日本人の印象を伺ってみると「とても謙虚、穏やか、礼儀正しい、この3点」と、即答。そして日本に住むからには、日本人の日常の暮らしに身を置き、一緒に学ぶ、が大使の信条。

その証として、来日後始めたのが「ヨガ」。なんと！ 仕事前の朝7時からの教室に、週3回通うほどの熱の入れよう。「おかげで身体が柔らかくなりましたよ」とニコリ。ス

ポーツジムで身体を鍛えることも忘れない。

さらに「私はすぐ歩きます」と断言なさるとおり、週末の土日は必ず散策に出かけている。広尾〜目黒〜代官山エリアがお気に入りで、20km歩くのは当たり前だそう(！)リュックに本を詰め、ウォーキングがてらお気に入りのカフェを見つけて、コーヒーと読書を楽しむのが至福のひとつ時という。「いつも歩いているので、広尾〜代官山界隈はかなり詳しいですよ」と大使。大使館の近所、有栖川宮記念公園の散策や、坂の上り下りを楽しみながら六本木へ。公邸〜大使館も時間があれば30分かけて徒歩通勤するほど。お話を伺っていると、とにかく身体を動かすことが好き、というのがよくわかる。なるほど、スリムな体型をキープされているわけだ。今までに赴任された各国でも、くまなく歩いてきたそうだ。田舎も都市も様々な場所を歩くことで、隠れ家的な店をみつけるのが面白いという。



大使を始め、日本在住のキプロス人は100人前後。最近HPを立ち上げ、お互いの情報を共有していきたいという。キプロス在住の日本人も同様に約100人だそう。

## アフロディーテの待つ島、魅力溢れるキプロス

私たちにとってまだまだなじみの薄い国、キプロス。政府観光局の冊子には「古代ギリシャの愛の女神アフロディーテ(ヴィーナス)が唯一“我が家”と呼んだ島、それがキプロスです」〜と謳っている。大使おすすめの観光スポットは？

「私の生まれ故郷である、西のパフォス(PAFOS)を是非



ユネスコの無形文化遺産に登録されているレース手芸「レフカリティカ」の作品。  
 襟、袖、足元などに美しく刺繍された普段使いの民族衣装。

訪れてほしいですね。海の世界は世界一。キプロスのかつての首都であり、アフロディーテ伝説発祥の地でもあります。」

ローマ時代(紀元前3世紀)の貴族の館にはギリシャ神話の「モザイク画」。エジプト・プトレマイオス王朝の王族の墓跡である広大な地下墳墓「王族の墓」なども見どころで、ユネスコの世界遺産となっている。紀元前からの歴史遺産が数多く残る、魅力ある国ということが、よくわかる。

長い歴史に培われた工芸、民芸品も注目だ。大使の故郷パフォス地方の普段使いの民族衣装は、温かい風合いのフィティ織に細かい刺繍が施されている。また島東南部のレフカラ村で代々受け継がれている針編刺繍「レフカリティカ」は、ユネスコの無形文化遺産に登録されているほどだ。

観光スポットと同時に、キプロスでの食事も気になる。ギリシャ、東地中海、南ヨーロッパなどの料理が楽しめるそうだ。

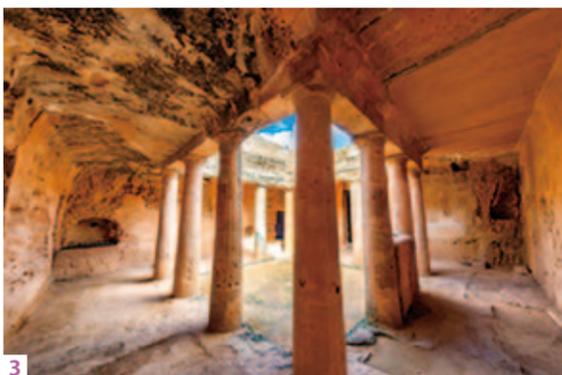
「チーズのハルミは是非グリルした料理で召し上がって下さい。串焼きのケバブもおすすめ。スイーツでは蜂蜜のシロップを潜らせたドーナツのルクマデスもキプロスの味ですよ。」

大使の好物はギリシャ料理のムサカ(茄子、じゃが芋、ミートソースの重ね焼き)。母上の得意料理で、大使にとってまさにお袋の味だ。話を伺いながら、歴史、文化、国のすべてが混在の魅力で溢れていた。

キプロスの有り余る魅力に圧倒されっぱなしのインタビューでした。1970年生まれ、52歳の若き大使は身の動きが実にかるやかで、終始笑顔で、丁寧に対応して下さいた。キプロスが行ってみたい国の上位にぐ〜んと押し上げられたのは言うまでもなく、心地よい取材でした。



大使がもてなして下さったハルミチーズの-snack。美味しく頂いた。こちらは火を入れず、生のままで。



世界遺産に登録されているパフォス(Paphos)周辺の観光スポット

① アフロディーテ(ヴィーナス)誕生伝説の海岸、ペトラ・トゥ・ロミウ(Petra tou Romiou)にある、「アフロディーテの岩」とよばれる名所。パフォスから東へ25kmに位置する。

② 紀元前3世紀のローマ時代の貴族の館に残されている、ギリシャ神話をモチーフにした「モザイク画」。

③ 広大な地下墳墓「王族の墓」。

※①〜③ キプロス政府観光庁/Republic of Cyprus, Deputy Ministry of Tourism提供

(取材・文/高柳由紀子)



1 1952-1965年頃 麻布校舎

# 麻布 未来写真館

〜麻布にあった大学①【前編】〜



2 昭和55(1980)年:麻布校舎玄関



3 令和4(2022)年

1 受験生がこの校舎を見るや廻れ右をして帰ってしまったという"伝説"が残っています。

3 令和となった今ではマンションやビルが立ち並んでいます。当時の面影は全くありません…。

5 大学の裏手と思われる路地にはノスタルジックな建物が残っています。今は黙して語らず…でしょうか？

6 当時の授業の一コマ(写真)が残っているのは珍しいかも知れません。

2 大学の表札の左側には何やら厳めしい名前を表札が並んでいます。一体何でしょう？

4 今でこそ麻布通りを1本入った閑静な住宅街ですが、当時は全く違う環境だったかも…。

7 今では「大学生の学生服姿」には違和感があるかも知れませんが当時はれっきとした正装です！角帽に学ラン、その価値観も全く違ったようです。



4 令和4(2022)年



5 平成26(2014)年:大学跡地付近



6 1950年代 第一工業高等学校(麻布校舎時代)の電気実験室



7 昭和28(1953)年:麻布校舎

読者の皆様は麻布にどんなイメージをお持ちでしょうか？

今の麻布からは少し考えにくいかもしれませんが、ほんのひと昔前には大学がいくつもありました。今回紹介するのはその中のひとつ、「法政大学」です。現在の南麻布2-8にありました。「何か当時の面影くらいは残っているのでは？」と軽い気持ちで撮影に行くと、驚くほど何の面影もありません。少し周囲を歩いてみると「不思議」な風景が残されていてビックリ。謎多きこの場所を次号以降も追跡していきたいと思えます。乞うご期待！今号は写真館らしく、現在と当時の写真を見比べながら懐かしさや今との違いをシンプルにお楽しみいただけたら幸いです。

●写真提供

1・2・3・7:『法政大学の100年』1980年、128頁(HOSEIミュージアムデジタルアーカイブ)

3・4:©おおばりか

5:麻布未来写真館 平成26年度 活動報告書



## 「麻布未来写真館」とは

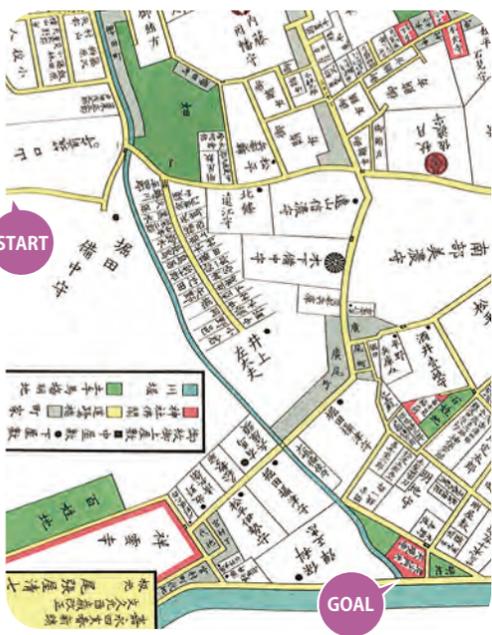
麻布地区総合支所では、地域への共感や愛着を深めていただくため、麻布地区の歴史やまちの移り変わりを記録、保存、継承する活動を行っています。

麻布地区の定点写真の撮影、昔の写真の収集等については、港区在住、在勤、在学者で構成された区民参画組織「麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」が主体となって活動しています。まちの歴史や文化を多くの方々にご紹介いただけるよう収集した写真をパネルとして港区ホームページや展示会で紹介していますのでぜひご覧ください。

## 「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！

明治から昭和にかけての麻布地区の建物や風景、お祭りなどの写真を募集しています。詳しくは、港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当までご連絡ください。

お問合せ 電話:03-5114-8812



「東部麻布之絵図」(文久元(1861)年(a))

# 麻布の外周を歩く①

麻布地区の外周を、境界線に沿ってぐるっと歩いてみませんか。区境や町境に注目してみると、見慣れた場所にも新しい発見があるかもしれません。第1回目は、日赤通り商店街中程からスタートして天現寺橋迄、港区と渋谷区の区境を歩きます(約1.5km)。

START

## 日赤通り商店街から堀田坂

スタート地点から堀田坂下迄は、江戸切絵図にも描かれた古道。道路北側の牛久藩山口家下屋敷が港区、南側の佐倉藩堀田家下屋敷が渋谷区と、大名屋敷の敷地境界がそのまま区境となりました①。

港区側は、ここに広大な邸宅を有していた画家黒田清輝子爵の死後、「土地を売却して美術界に貢献する事業に寄付を」との遺言に従い、隣接する高木子爵の所有地とあわせて、昭和元(1926)年当時最先端の設備を備えた住宅地として分譲されました。黒田邸に隣接する古川虎之助男爵麻布別邸は高陵中学校の敷地になり、今もこの一帯は一区画が大きいゆったりした街並みです。

道路の両側には揃いの美しいケヤキ並木が。区境であっても区道の管理はどちらかの区が行うこととしており、この道路については街路樹や植栽も含めて港区が管理しています。



ケヤキ並木



堀田坂下の区境

## 堀田坂下から日比谷線広尾駅までの暗渠道

堀田坂下から天現寺橋迄は、昭和初期に暗渠化(\*)された筈川の流路が区境になっています。堀田坂下の鋭角の区境②から広尾駅に向かう道は、緩やかなカーブや渋谷区側との高低差等に、「かつて川だった」ことが感じられます。途中には燈孔(点検時に照明を吊す孔)の蓋も。燈孔は主に戦前に作られ、都内では数力所しか残っていない貴重品です③。

\* 河川や水路に蓋をして地中に埋設すること



暗渠道の燈孔蓋

## 外苑西通り

広尾駅から筈川は外苑西通りの下を流れます。外苑西通りが区境であれば東側が港区、西側が渋谷区? いえいえ、道路案内板を見て下さい。境界線はカーブして、一箇所だけ渋谷区になっているのです(この場所に建つ「広尾コンプレックス」の住所は渋谷区広尾5-7-34)。筈川が暗渠化される前の地図と比べると、確かに! 流路と区境が一致しています。暗渠となり広い直線道路の下に潜っても、その流れが区境として残っていたのです④。



道路案内板拡大部分



東京通信局「東京市十五区番地界入地図 麻布区」大正13(1924)年(b)



天現寺前の道路案内板



GOAL

## 天現寺橋

筈川は天現寺橋交差点で古川と合流し、以降麻布の境界線は古川沿いに東に延びてゆきます。天現寺橋の名称の由来となった多間山天現寺は、享保4(1719)年からこの地に鎮座する古刹。境内には2対の狛犬(狛犬ではない)が奉納されています。各々の台座には「明和三年」「天保六年」と記され、日本最古の狛犬との説もあるそうです⑤。

(明和三年=1766年、天保六年=1835年)



虎は寺の本尊である毘沙門天の使いとされる

●協力 ●地図出典  
多間山天現寺 (a)『嘉永・慶応 江戸切絵図』1997,(株)人文社、(b)公益財団法人特別区協議会  
●参考文献  
加藤仁美「戦前の信託会社による住宅地開発について—三井信託会社の場合—」1989,第一住宅建設協会(取材・文/八巻綾子)

麻布地区  
地域事業

# あざぶ達人ラボ 新規メンバー募集！！



冊子は麻布地区総合支所協働推進課で配布しております。

麻布のまだ知られていない魅力を一緒に引き出してくれるメンバーを大募集中です。

麻布の魅力を学び、伝えるために平成20年度からスタートした地域事業【あざぶ達人ラボ(当初はあざぶ達人倶楽部)】では、3つの部会に分かれてそれぞれの視点から麻布地区の魅力を発信する活動をしています。

さらに大勢の方に活動を知ってもらい、若い方にも参加していただけるようなアイデアを出し合う「企画部会」を設置しました。

## あざぶ達人ラボ3つの部会

### 研究部会

麻布の建築・地形・歴史・文化などを独自の視点で読み解きます。

### 地域との連携部会

地域事業「地域サロン～ちょこっと立ち寄りカフェ～」等に出向き、ミニイベントを開催しています。麻布の魅力や歴史を、遊びながら学べる「あざぶカルタ」も作成しました。

### まちあるき部会

麻布地区の魅力を巡ってつたえる、散策マップを作成し、ガイドツアーを実施しています。



お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課 地区政策担当 電話／03-5114-8812

麻布地区  
地域事業

## 麻布未来写真館 活動に興味ある方の参加お待ちしております！

麻布地区総合支所では、区民とともに麻布の昔の写真の収集、現在の風景写真の撮影を行っております。

写真撮影をするためのまち歩きを行い、麻布地域への愛着を深めるとともに、撮影した写真をパネルとして保存し、麻布地区の今と昔を広く紹介します。

写真撮影がお好きな方、麻布の歴史に興味のある方、地域への愛着を深めたい方など、ぜひお気軽にお問合せください。



港区ホームページ



まち歩き撮影会の様子



お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当  
電話／03-5114-8812

## ガイドブックには載っていない、ご近所情報がいっぱい！ 地域SNSアプリ「ピアッツァ」



### 麻布大好きなみんなとつながろう！

「麻布十番でお祭りを開催します」「区内在住の方に、扇風機をお譲りします」「六本木・東麻布周辺でおすすめの小児歯科を教えてください」など、麻布地区での暮らしに役立つ地域情報が、ユーザー発信によって集まっています！

まちの防犯・防災情報や、自治体ニュース、イベントのお知らせなど行政の最新情報も随時投稿されます。

「地域のことをもっと知りたい、でも検索するのは面倒…」 「子育て中の悩みを相談してみたい」、そんな方はぜひ一度「ピアッツァ」をお試しください。



### 登録は3ステップ！

- STEP ① ピアッツァアプリをダウンロード
- STEP ② メールアドレスかFacebookアカウントで登録
- STEP ③ 名前や出身地などを入力し、「麻布・六本木エリア」を選択



あなたの情報が誰かの役に立ちます！  
麻布を楽しみたい人は、ご参加ください！

アプリはこちらからダウンロードしてください



お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係 電話／03-5114-8802

## 「いざ！という時の在宅避難ガイドブック」を作成しました！

### 選択肢は避難所だけではありません！

港区では、感染症対策として、避難所の受け入れ定員数を縮小しております。そのため一人ひとりが在宅避難の重要性について認識する必要があります。

そこで、麻布地区では、感染症対策を踏まえた災害時における在宅避難のすすめとして「いざ！という時の在宅避難ガイドブック」を作成しました。このガイドブックでは、在宅避難とは何か、何を準備すればいいのかなど、在宅避難で無事に過ごすための注意点を紹介しております。

当ガイドブックは、麻布地区にお住いのみなさまへ各戸配付をしております。また、麻布地区総合支所協働推進課の窓口でも配布しております。

パンフレットの内容は、港区ホームページからもご覧いただけます。

避難所って密になりそうだな～



あざぶ

「いざ！という時の在宅避難ガイドブック」はこちらから



お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係  
電話／03-5114-8802



# 港区麻布地区総合支所だより



## 都税事務所からのお知らせ

1

### 自動車の移転手続・廃車手続はお済みですか？

自動車税種別割は、毎年4月1日現在、自動車検査証(車検証)に記載されている所有者(割賦販売の場合は使用者)の方に課税されます。自動車を譲渡したときは移転登録、廃車したときは抹消登録の手続が必要です。管轄の運輸支局又は自動車検査登録事務所で手続をお済ませください。

\*令和4年3月31日(木)までに手続をお済ませください。

2

### 引越しをしたときは、自動車の変更登録の手続が必要です

引越しをしたときは、管轄の運輸支局又は自動車検査登録事務所で自動車の変更登録の手続が必要です。手続が遅れますと、自動車税種別割の納税通知書が届かないなどのトラブルの原因となります。

やむを得ず手続が遅れる場合は、電子申請や電話等により、納税通知書の新しい送付先住所をお知らせください。

3

### 令和4年度定期課税分自動車税種別割の障害者減免申請の受付を行っています

現在、新たに身体障害者手帳等の交付を受けた方、減免申請がお済みでない方を対象に、令和4年度分の自動車税種別割の減免申請の受付を行っています。

**減免対象** 身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方で、一定の要件を満たす場合

**申請期限** 令和4年5月31日(火)

\*減免額には上限が設定されています。

お問合せ/東京都自動車税コールセンター 電話/03-3525-4066



## 六本木安全安心プロジェクト、進行中!

こんなところて!?

「ルールがあるから自由がある」「たくさんの人と文化が集う六本木で、すべての人が自由に、楽しく過ごせるように」—六本木の防犯と美化のため、みんなが守るべき「まちのルール」が、「六本木安全安心憲章」です。ザ・AZABU読者の麻布通のみなさんには、「そんな常識!」という方も多いかもしれませんね。この六本木安全安心憲章をPRするプロジェクト=「六本木安全安心プロジェクト」ですが、実はちょっと意外なこんな形があるんです! ご存じ「あの」メディアでも…!? おうち時間のパソコンで、お手元のスマホやタブレットで、ぜひぜひ、のぞいてみてください♪あなたのデイリーライフに役立つ情報もあるかも…!

### 食べログで六本木安全安心憲章に賛同するお店が探せます

お料理の味はもちろんのこと、お店の内装、個室があるかどうか、感染対策は万全かどうか…今の時代、お店選びの基準はいろいろありますよね。そんなみんなのお店選びに、「社会貢献意識が高いお店かどうか」をプラスしてほしい…そんな思いで、「食べログ」ウェブサイトの中に六本木安全安心憲章タイアップページをオープンしています! 「食べログ」ページを持っているお店の中から、六本木安全安心憲章の取組に協力する「賛同事業所」登録店を探せるようになってきているこのタイアップページ。六本木で楽しく飲み、食べるなら、よりよいまちづくりへの意識が高いお店で、ぜひ! きっと、楽しいお食事やティータイムがさらに豊かなものになりますよ!



### 世界中の人に「ZERO ROPPOGI」が広がりますように…

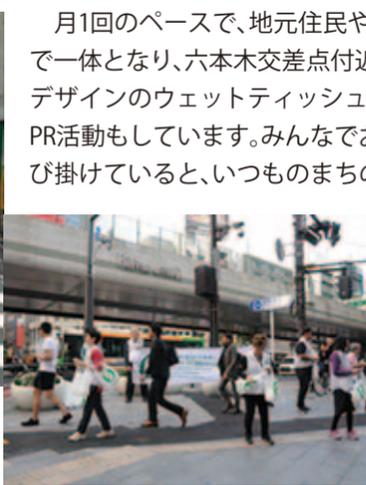
訪日外国人向け観光情報サービス「LIVE JAPAN PERFECT GUIDE」に、六本木安全安心憲章と憲章賛同事業所の制度を紹介する記事を、日本語と英語で読めるように掲載しています。この記事ではご協力してくださった賛同事業所とのコラボPR動画も見ることができますよ!



## あなたも仲間! 六本木安全安心プロジェクトキャンペーンに来てみませんか



キャンペーンの様子



月1回のペースで、地元住民やお店・企業の皆さんと行政とがみんな一体となり、六本木交差点付近の清掃活動をしています。オリジナルデザインのウェットティッシュなどを配布し、六本木安全安心憲章のPR活動もしています。みんなでお掃除したり、「マナーを守ろう!」と呼びかけていると、いつものまちの様子をまた少し違う目線で眺められるものです。ときには道行く人たちと笑顔を交わしたり、「がんばれ!」「ありがとう!」などと声をかけていただけのことも。ご一緒に充実感ある時間を過ごしてみませんか? ご興味がある方は、お気軽にお問合せください!



買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話/03-5114-8812 ●FAX/03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧いただけます。

「ザ・AZABU」は英語版も3カ月後に発行しています。



ザ・AZABU

Staff  
出石 出石 出石  
おおばまりか  
大村 大村 大村  
公美子  
加生 加生 加生  
美佐保  
菅野 菅野 菅野  
あゆみ  
小池 小池 小池  
澄枝  
Mai S.  
高柳 高柳 高柳  
由紀子

### 編集後記

6年間お世話になった本紙を卒業する。穏やかな微笑みのような昼の顔と、ギョロっとした眼光するとき夜の顔を併せもつ「AZABU」という街は、まるで龍が如く、脱皮をくり返しながらか、引き寄せられる人々の心を刺激している。生え変わった鱗は未来へ向かい、脱ぎ捨てられた殻は、ゲニウス・ロキ(土地の記憶)となって過去を語る。その変容を次世代へと語り継いでいくのが、この活動だ。扉はすべての在住・在勤者に開かれている。興味のある方はぜひ、ご参加を!

(SK)

### 「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休/午前8時~午後8時 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752  
お問合せフォーム/ <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

“Minato Call” information service  
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m.~11 p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;  
Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>

●配布設置場所ご案内  
六本木一丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いざいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等  
●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。